農事組合法人　丹生（にゅう）営農組合【多気町丹生地区】

■水稲・大豆のブロックローテーションと農地集積で、**集落営農組織の経営規模を拡大**！
■新たな収益源として**新規作物「金時生姜」の契約栽培**を開始、６次産業化にもチャレンジ！

取組地域の概要

丹生地区は、多気町の西部に位置し、丹生大師の門前町、宿場町として、和歌山別街道の中でも屈指のにぎわいを誇った集落である。江戸時代に築かれた立梅用水を活用して、米や大豆、お茶が栽培されている。

「あじさいいっぱい運動」や、農村レストラン「まめや」、交流施設「ふれあいの館」など、県内でも屈指の「里づくり」の盛んな町で、全国的な知名度も高い。

（農）丹生営農組合のみなさん

取組の背景

平成５年から始まった「あじさいいっぱい運動」を契機に、地域の農家も非農家も子ども達も一体となって、「農地」を守っていくという雰囲気がつくられた。

平成 20 年度に、オペレーター型の集落営農組織として営農組合が設立され、小麦・大豆の栽培、水稲作業の受託、伊勢芋の栽培等を行っている。組織体制を強化するため、営農組合は平成 23 年度に法人化された。

取組のポイント

ポイント１　営農組合への農地集積により、持続的な営農体制を構築

- 農地中間管理事業を利用した農地集積が進められ、営農組合の経営規模は約 80ha と拡大している。ブロックローテーションにより、水稲 30ha、小麦 46ha、大豆 40ha、白菜 1.4ha を作付けしている。
- 20～30 代の正規雇用のオペレーター３名を確保し、若手農家の育成に取り組んでいる。

ポイント２　金時生姜の契約栽培により収益を確保

- 平成 24 年度から、伊勢土産の「生姜糖（しょうがとう）」の原材料として、金時生姜の契約栽培をスタートさせた。県内に産地がないため、先進事例調査により栽培暦の作成や栽培技術の確立に取り組むとともに、出荷・貯蔵・輸送に係る責任体制の明確化を図った。
- 収穫した生姜を用いた新商品開発にも平行して取り組み、生姜の佃煮、生姜パウダーを商品化した。

丹生営農組合の商品

ポイント３　近隣の集落との連携

- 他集落の農地集積組織と協定を結び、丹生地区以外の農地を集積・保全している。また、農地の集積だけでなく、相互にイベントに参加するなど、集落同士の連携を深めている。

今後の展望

収益の確保に向け、米の直接販売や秋冬野菜の作付け拡大に取り組む。また、農産物の高品質化を図るため、土づくりを実施する。

◆本事例に関する問い合わせ先◆
三重県松阪農林事務所農政室地域農政課
電話　０５９８－５０－０５１５